

令和6年度

全国学力・学習状況調査における 香美町の調査結果のまとめ(概要)

- 1 調査の概要 <P1>
- 2 本町の状況
 - (1) 教科に関する調査の状況
 - ① 小学校に関する状況 <P1>
 - ② 中学校に関する状況 <P1>
 - ③ 教科ごとの調査の状況 <P2>
 - (2) 教科ごとの状況(良好と考えられる項目及び課題と考えられる項目)
 - ① 小学校国語 <P3>
 - ② 小学校算数 <P4>
 - ③ 中学校国語 <P5・P6>
 - ④ 中学校数学 <P7・P8>
 - (3) 児童生徒質問・学校質問に関する調査の状況
 - ① 学校運営に関する取組状況について(抜粋) <P9・P10>
 - ② 自己変容の状況について(小6年時と中3年時の3年間の経過から)
<P11・P12>
 - ③ これまでの回答状況の変化から <P13~P18>
 - ④ PC・タブレットなどのICT機器の活用について <P19・P20>
 - ⑤ 英語に関する状況について <P21・P22>
 - (4) 児童生徒質問と正答率のクロス分析の状況から
 - ① 「テレビゲームの時間」と正答率の状況について <P23>
 - ② 「人の役に立つ人間になりたい」と正答率の状況 <P24>
 - ③ 「自分で学び方を考え工夫すること」と正答率の状況 <P25>
 - ④ 「家庭学習の時間」と正答率の状況 <P26>
 - ⑤ 「家庭の蔵書数」と正答率の状況 <P27>
 - ⑥ 「新聞を読むこと」と正答率の状況 <P28>
 - ⑦ 「互いに協力しながら課題解決」と正答率の状況 <P29>
- 3 今後の取組の方向性について <P30・P31>

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 令和6年4月18日(木)

(3) 調査実施校数及び人数

◇小学校6年生：8校 108人

◇中学校3年生：3校 104人



(4) 調査内容

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題では、上記のアとイを一体的に問う。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

ア 児童生徒に対する調査

イ 学校に対する調査

※児童生徒質問調査は、原則すべての児童生徒を対象にオンライン方式により実施。

2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

① 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較※1	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度※2	同程度
算数	同程度	同程度

② 中学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
数学	同程度	同程度

※1 全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国公立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。(以下、全国、兵庫県と言う。)

※2 「同程度」とは全国、兵庫県との比較で平均正答率の±5ポイント範囲内を示す。

③ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】

小学校

【国語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが一部できる。
- 人物像を具体的に想像することができる。
- ▼ 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問いに課題がある。
- ▼ 無解答率は、全国、兵庫県、香美町は同じ傾向にあるが、無解答率が10%を超えている「問い」は、全国は2問、兵庫県、香美町は3問ずつある。

【算数】

- 直方体の見取図について理解し、かくことができる。
- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。
- ▼ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問いに課題がある。
- ▼ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問いに課題がある。
- ▼ 無解答率が10%を超えている「問い」については、全国、兵庫県、香美町とも同じ傾向にあるが、全国、兵庫県は1問、香美町は2問ある。

中学校

【国語】

- 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。
- 行書の特徴を理解している。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
- ▼ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問いに課題がある。

【数学】

- 等式を目的に応じて変形することができる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。
- ▼ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題がある。
- ▼ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(2) 教科ごとの状況 (良好と考えられる項目及び課題と考えられる項目)

①小学校 国語

ア.【良好と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができること	【知識及び技能】(2)言葉の特徴や使い方に関する事項

イ.【特に課題と考えられる項目】

- * 「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」
- * 「正答率が10%台」の「問い」

※該当する「問い」は、ありません。

ウ.【イ以外で課題と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問3三	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	【思考力、判断力、表現力等】 C読むこと

問題	分析
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめて次の条件に合わせて書きましょう。</p> <p>〇〇〇 (条件) 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。 六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。</p> <p>※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。 ※◆の印から書きましょう。どちらゆうで行を変えないで、続けて書きましょう。</p> <div style="border: 1px dashed gray; width: 100%; height: 150px; margin-top: 10px;"></div> </div>	<p>〈大問3三〉</p> <p>正答例</p> <p>(例) オニグモじいさんが、ハエの女の子に、自分が食べているのは朝日のひかりだと話したところが心に残りました。その理由は、すなおな女の子をおどろかせず、安全に帰そうとするやさしさが表れていると思ったからです。</p> <p>解答の状況</p> <p>本町の平均正答率は65%を越えているが、無解答率も20%を越えている問いである。条件を満たした記述式の問いについては、R5年度から引き続き課題がある。</p> <p>改善に向けて考えられる方策等</p> <p>学習指導に当たっては、友達が着目したところと自分が着目したところを比べることを通して児童が「人物像」や「物語の全体像」「表現の効果」のどの観点で読んだのかを明確にしていくことが大切である。また、理由を書くことが難しい場合は、「なぜかという」と「～からです。」などの語句を例示することも考えられる。さらに根拠については、「～のところから」などの例示することも考えられる。</p>

②小学校 算数

ア.【良好と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域
大問3(4)	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。	B 図形

イ.【特に課題と考えられる項目】

- * 「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」
- * 「正答率が10%台」の「問い」

※該当する「問い」は、ありません。

ウ.【イ以外の課題と考えられる項目】

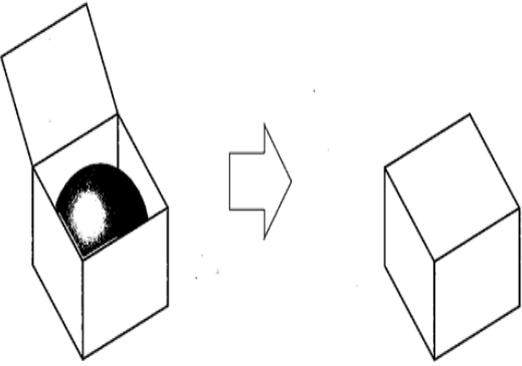
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問3(3)	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	B 図形

問題

(3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

分析

<大問3(3)>

正答例
「 $22 \times 22 \times 22$ 」

解答の状況
平均正答率が35%以下、かつ無回答率が10%以上の問いである。誤答として最も多いのは、 $22 \times 22 \times 22$ と解答しているものである。これは球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えることができているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。

また、 22×3.14 と解答した児童は球の直径の長さや円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。

改善に向けて考えられる方策等
球の直径とその測り方について振り返り、立方体の体積を求めるために必要な長さや球の直径の長さが関係していることに気づき、球の直径の長さを用いて立方体の一辺の長さを見出すことができるようにすることが大切である。

ア.【良好と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問2 三	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる	【思考力・判断力・表現力】 C読むこと
大問4 三	行書の特徴を理解しているかどうかをみること	【知識及び技能】 (3)我が国の言語文化に関する事項

イ.【特に課題と考えられる項目】

- * 「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」
- * 「正答率が10%台」の「問い」

※該当する「問い」は、ありません。

ウ.【イ.以外の課題と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問2 一	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみること	【思考力・判断力・表現力】C読むこと

問題

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形」の「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のよう」「手のひらのような」……。それぞれさまざまな形容があるでしょう(図)。

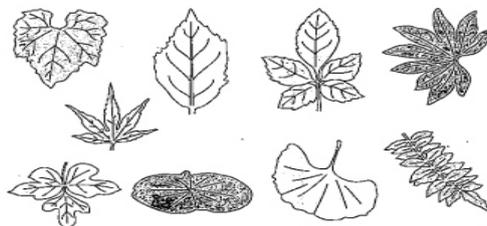


図 さまざまな形の葉

では次に、これらの言葉を2つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を2つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、二次元的(平面的)な形容と、三次元的な(厚み方向の)形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のよう」「手のひらのような」は平面的の形の形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的な形容のほうは数多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、きわめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚ぼったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚ぼったい」とは言いません。「厚ぼったい」も「薄い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」ことにあるわけです。平たいものなかには、平均的なものより厚めなもの、薄めなものがある、その程度の差が形容の差を生み出しているのです。つまり、植物の葉の、三次元的な厚み方向の形の本質は「平たい」というひとつの共通の概念にまとめることができます。

といった途端、ネギの葉はどうなんだ、という突っ込みが入りました。たしかに長ネギの葉は丸くなっています。これはどう考えたらよいのでしょうか。

八百屋さんから長ネギを買ってきてよく観察すると、白い部分は何層にもなっていて中まで詰まっているので、実際の立体的な形は円柱です。しかし、緑色の部分はほぼ一層で、中は空っぽですから、実際の形は円筒形です。葉としての役割を果たす緑色の部分は、外側一層しかなくて、丸く湾曲しているものの、ネギも平たいといえるでしょう。やはり、三次元的な形は「平たい」という一言に集約できそうです。

一方で、葉の形の、二次元的、平面的な形容は本当に多種多様です。三次元的な形は「平たい」という共通性、普遍性を示すに
対して、二次元的な形は、植物によって異なり、多様性を示すことがわかります。

この「普遍性」と「多様性」には、生き物の研究をしていると、なにかにつけてぶつかります。生物学とは違って、数学や物理学、
それに化学の一部は、普遍性の学問です。1+1は誰にとつても2ですし、鉄がたまに金の性質を示す、というようなことはありま
せん。鉄は鉄、金は金です。酸素と水素が反応してできるのは水であって、たまには水ではなくて油ができてよいだろう、などと
いったら化学者に怒られます。

しかし、生き物を扱っていると、そのように単純には物事が進みません。植物の葉は常に緑色であるといいたいところですが、モ
ミジは秋になると紅葉しますし、園芸店に行けばいくらかでも白や黄色の斑入りの葉、あるいは紫色が鮮やかな葉を見つけること
ができます。植物は光合成で生きています、といった途端に、ナンバンギセルなどの寄生植物は違うだろうという突っ込みが入りま
す。植物の多くが緑色の葉をもって光合成をしているのは事実であって、それは植物の本質的な生き方を反映しているのですが、そ
の本質にさえ、例外があります。ましてや、葉の平面的な形は、植物の種類ごとに違ふ、多様性の宝庫なのです。

(園池公毅「植物の形には意味がある」による)

一 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものととして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

分析

〈大問2一〉

正答例

1, 2

解答の状況

本町の平均正答率は30%台であり、県・国と同様である。1と解答し、2と解答してい
ないもの、2と解答し、1と解答していないものがあるが、それぞれ第一段落、第二段落の
「実際の葉の形」「さまざまな形容」を図と結び付けて考えることができているものと思
えられる。

改善に向けて考えられる方策等

説明的な文章を読む時には示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているかを
確認し、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にど
のような効果が生まれているのかを考えることが重要である。例えば、パンフレットや雑誌
の記事、ウェブサイトを示されている文書など、実生活の中にあるものを教材として取り上
げ、文脈を踏まえた上で図表などがもつ役割について考える学習活動が考えられる。

④中学校 数学

ア.【良好と考えられる項目】

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問 6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	【数と式】

イ.【特に課題と考えられる項目】

- * 「平均正答率が30%以下」かつ「無回答率が10%以上」の「問い」
(但し、全国・県の平均正答率が30%以下の項目については、町の平均正答率が全国・県と同程度(±5%)の場合は、掲載しない。)
- * 「正答率が10%台」の「問い」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容
大問 7 (2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	【データの活用】

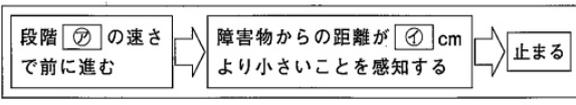
問題

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

車型ロボットの説明

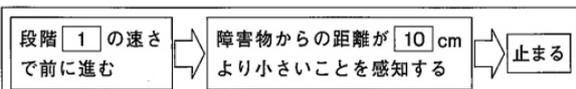
- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。
- 
- プログラムの ⑦、⑧ に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
 - ⑦ は、速さとして最も遅い段階1から最も早い段階5まで設定できる。
 - ⑧ は、距離として3cmから500cmまで設定できる。

プログラム

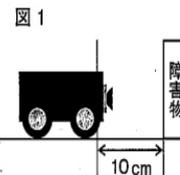


海斗さんは、まず、プログラムの ⑦ に1を、⑧ に10を入れて、次のように設定しました。

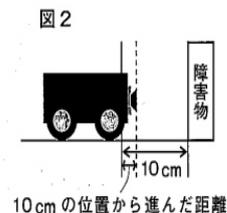
海斗さんが設定したプログラム



この設定で、海斗さんが車型ロボットを障害物に向けて走らせてみたところ、次の図1のように、設定した10cmの位置よりも進んで止まりました。



そのようすを見て、海斗さんは、車型ロボットが10cmの位置からどれくらい進んで止まるか気になりました。そこで、次の図2のように、10cmの位置から進んだ距離を調べる実験を20回行い、その結果を下のように小さい順に並べました。



10cmの位置から進んだ距離について調べた結果

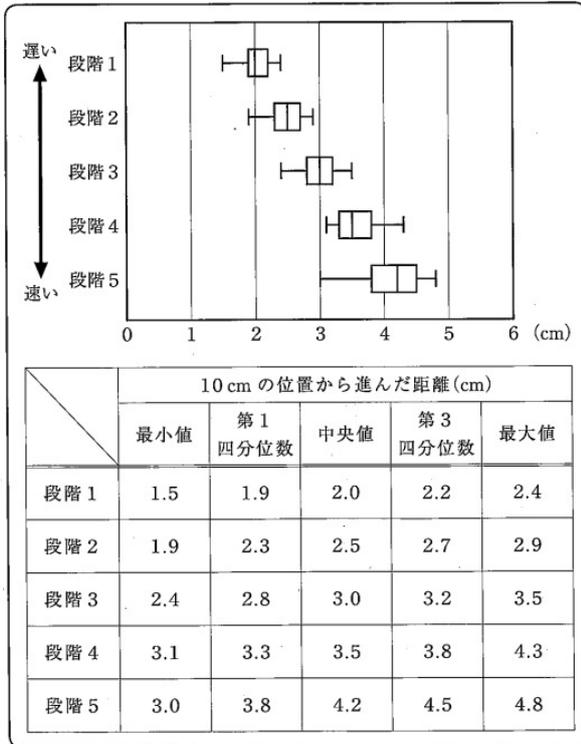
1.5 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 2.0 2.0
2.0 2.0 2.1 2.1 2.2 2.2 2.2 2.2 2.4 2.4

(単位: cm)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10 cm の位置から進んだ距離の分布



前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

分析

<大問7(2)>

正答例

(2) 説明(例)

速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている

解答の状況

正答率は20%以下であり、誤答として多いのは、解答以外で四分位数のいずれかの値がだんだんと大きくなっていることについて記述しているものである。また、無解答の生徒の割合は39.4%で、全国より10%程度多い。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題があると考えられる。

改善に向けて考えられる方策等

データの分析の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにする。本問については「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっているから」などのように、判断の理由を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

(3) 児童生徒質問・学校質問に関する調査の状況

① 学校運営に関する取組状況について(抜粋)

学校質問による回答結果による香美町における取組状況は次の表のとおりである。

ア. 学校運営に関する状況(抜粋)について

質問番号	質問事項
小(11)、中(11)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか。

	十分に取り入れている	一部取り入れている	全く取り入れていない
小学校	2校	6校	0校
中学校	0校	3校	0校

イ. PDCAサイクルの確立について

質問番号	質問事項
小(13)、中(13)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	3校	5校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

ウ. 授業研究や事例研究等の実践的な研修について

質問番号	質問事項
小(16)、中(16)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	5校	3校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

エ. 学校運営の課題等の共有と改善について

質問番号	質問事項
小(20)、中(20)	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	6校	2校	0校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校

オ. 学習評価について

質問番号	質問事項
小(40)、中(40)	創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価基準や評価方法の教員間での明確化、共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取り組みをする。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
小学校	1校	5校	2校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校

カ. ICT機器の活用状況について

質問番号	質問事項
小(56)、中(60)	あなたの学校では、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	4校	2校	2校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校	0校

キ. 小学校教育と中学校教育の連携について

質問番号	質問事項
小(68)、中(72)	前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。

	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
小学校	1校	3校	3校	1校
中学校	0校	3校	0校	0校

ク. 学校と地域や保護者の相互理解について

質問番号	質問事項
小(70)、中(74)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。

	よく思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
小学校	2校	4校	0校	0校	2校
中学校	0校	3校	0校	0校	0校

ケ. 調査結果の活用について(教育活動の改善)

質問番号	質問事項
小(74)、中(78)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	4校	4校	0校
中学校	2校	1校	0校

コ. 調査結果の活用について(保護者・地域への公表)

質問番号	質問事項
小(76)、中(80)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含みます。)

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	2校	6校	0校
中学校	1校	2校	0校

- 取り上げた項目においては、概ね肯定的な回答であり、学校長のリーダーシップのもと学校運営の円滑化に向けて、教職員が一体となって取り組んでいる様子が見える。
- GIGA スクール構想によりすべての児童生徒にタブレットが配備され、児童生徒のICT機器に対する有用感が高い状況を考えると一層効果的な活用が必要である。
- 小学校教育と中学校教育の連携について「あまり行わなかった。」「全く行わなかった」と回答している小学校が見られる。改善に向けた校区での計画的な取組が必要である。
- 令和6年度からすべての学校で学校運営協議会(コミュニティスクール)が設置された。今後、関係者が連携して効果的な学校運営が推進されるよう取組を進めていく。
- 調査結果は、自校の教育活動の改善への活用、また、保護者・地域への公表は行われている。

② 自己変容の状況について（小6時と中3時の3年間の経過から）

質問紙の経年比較により、今年度の中学3年生(104名)の意識が、小学校6年生(117名)の時（令和3年度）と比較してどのように変化しているか追跡した。

<自己有用感、挑戦心、規範意識、達成感>

*数字は令和6年度の生徒質問番号（上段：香美町）
（下段：（全国））

質問事項 / 回答状況	小6時の回答状況 (R3年度) %	中3時の回答状況 (R6年度) %
9) 自分には、よいところがあると思いますか。	86.4(香美町) (76.9)(全国)	79.8(香美町) (83.3)(全国)
11) 将来の夢や目標を持っていますか。	79.5 (80.3)	63.5 (66.3)
13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか。	99.2 (96.8)	97.1 (95.7)
15) 人の役に立つ人間になりたいと思いませんか。	97.5 (95.5)	96.1 (95.2)

<学習に対する関心、意欲、態度>

質問事項 / 回答状況	小6時の回答状況 (R3年度)	中3時の回答状況 (R6年度)
50) 算数・数学の勉強は好きですか。	61.5(香美町) (67.8)(全国)	63.5(香美町) (57.2)(全国)
51) 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	90.6 (93.8)	90.4 (87.2)
52) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	84.6 (84.6)	79.8 (75.7)
53) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いませんか。	94 (92.6)	87.5 (78.5)
54) 算数・数学で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	76.0 (73.9)	51.9 (57.2)
55) 算数・数学の問題の解き方が分からないときには、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	90.6 (82.7)	78.9 (78.1)

<基本的な生活習慣、学校生活等、地域や社会に対する興味・関心>

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R3年度)	中3時の回答状況 (R6年度)
1) 朝食を毎日食べていますか。		100(香美町) (94.9) (全国)	96.1(香美町) (91.2) (全国)
2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。		84.6 (81.2)	85.6 (80.7)
25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(何かしてみたいと思いますか)		58.9 (52.4)	85.6 (76.1)
33) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(できていますか。)		89.7 (78.8)	87.5 (86.1)

(注) 各質問事項の問いに対して「している・どちらかといえばしている」、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」などと肯定的に回答した割合である。

分析

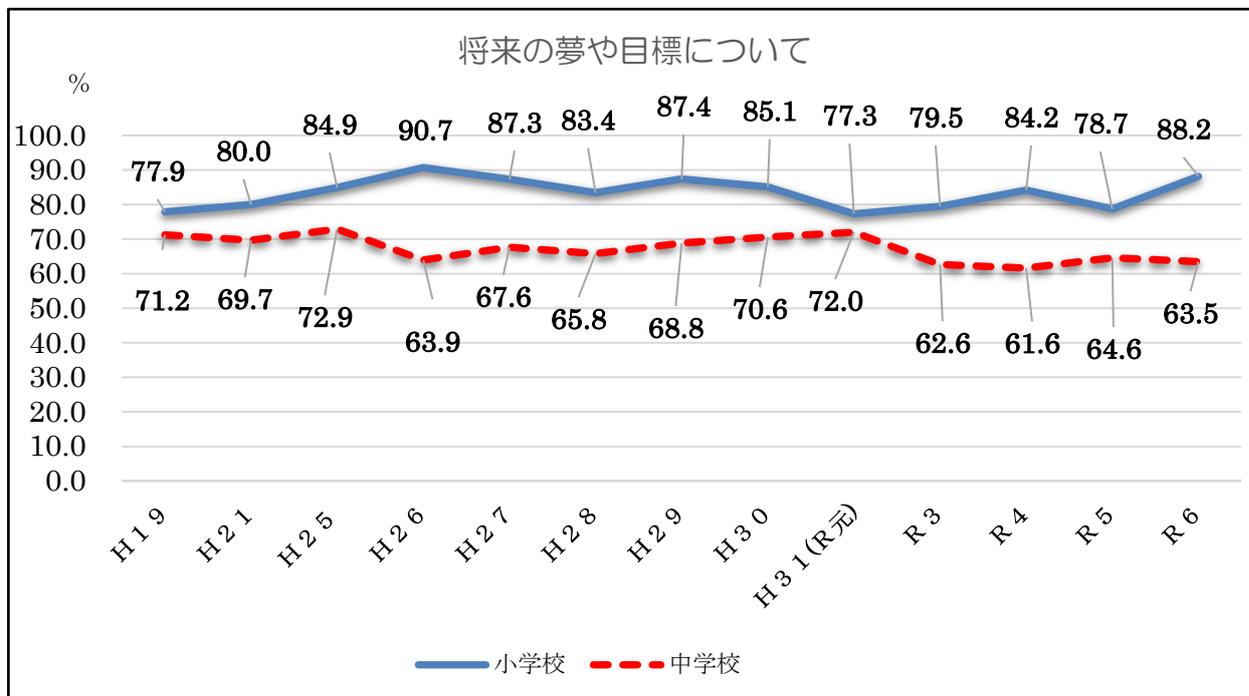
- 「自分には、よいところがあると思いますか」は小学6年と中学3年を比較すると全国はやや増加しているが、香美町はやや減少している。
- 「夢や目標を持っていますか」は全国、香美町とも10%以上減少している。今後とも、夢や目標を持って取り組めるよう、更なるキャリア教育の推進などが求められる。
- 規範意識は、全国、香美町とも高く、特に「いじめは、どんな理由があってもいけないこと。」という意識が高い。これまでからの人権教育の充実による人権意識の高揚によると考えられる。
- 小学校から中学校に進級し、教科も「算数」から「数学」に変わり、肯定的な回答の割合は低下傾向にあるが、「勉強は好きですか。」「勉強は大切だと思いますか。」については、香美町は全国平均よりも高い状況である。
- 「算数・数学の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」について生徒は全国よりも香美町は低い。算数・数学の学習をすすめるに当たっては、それらの教科の学習が、キャリア教育の視点から日常生活と結びついている場面を児童生徒に提示したり、好奇心を持って学習に臨んだりするなどの指導方法の工夫改善が求められる。
- 基本的な生活習慣や学校生活については、肯定的な回答が高く概ね良好と考えられる。
- 地域社会への貢献については、全国、香美町の生徒の割合が高くなっている。ふるさと教育の実践などを通じて、地域の一員としての生き方を考える取組や実践が、よい意味で影響していると考えられる。

③ これまでの回答状況の変化から

児童生徒質問については、調査開始当初から継続調査している項目を中心に抜粋し、調査結果の推移・分析を掲載する。

ア【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）

質問番号 小・中（11）

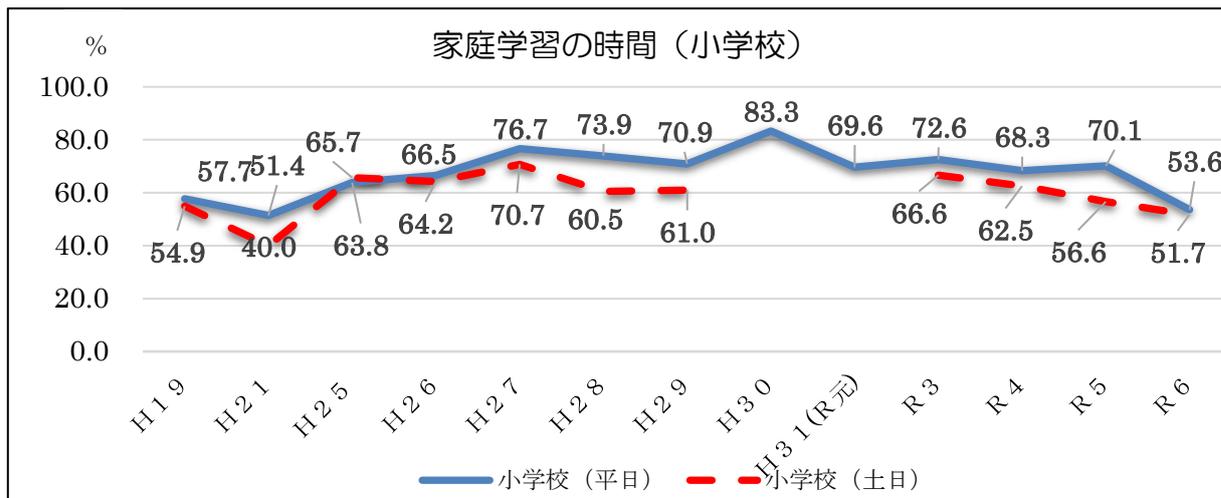


(注) 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では昨年度より10%以上増加している。一方、生徒ではやや減少し、近年60%台で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

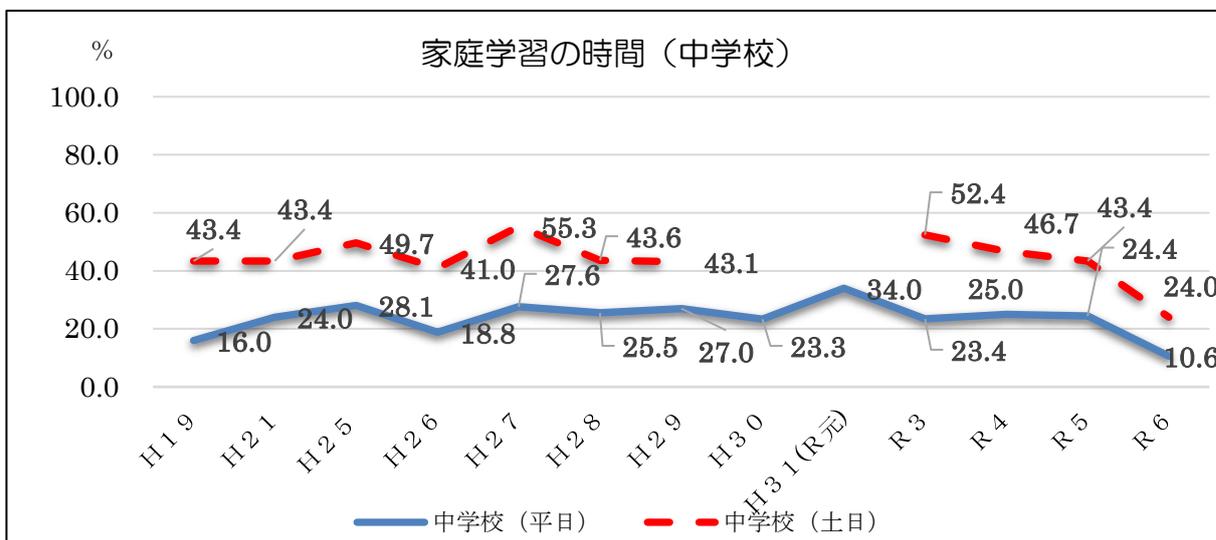
イ【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）

質問番号 小（21）



(注) 児童…1時間以上（平日・土日とも） (注) H30, H31は質問項目なし

質問番号 中（22）

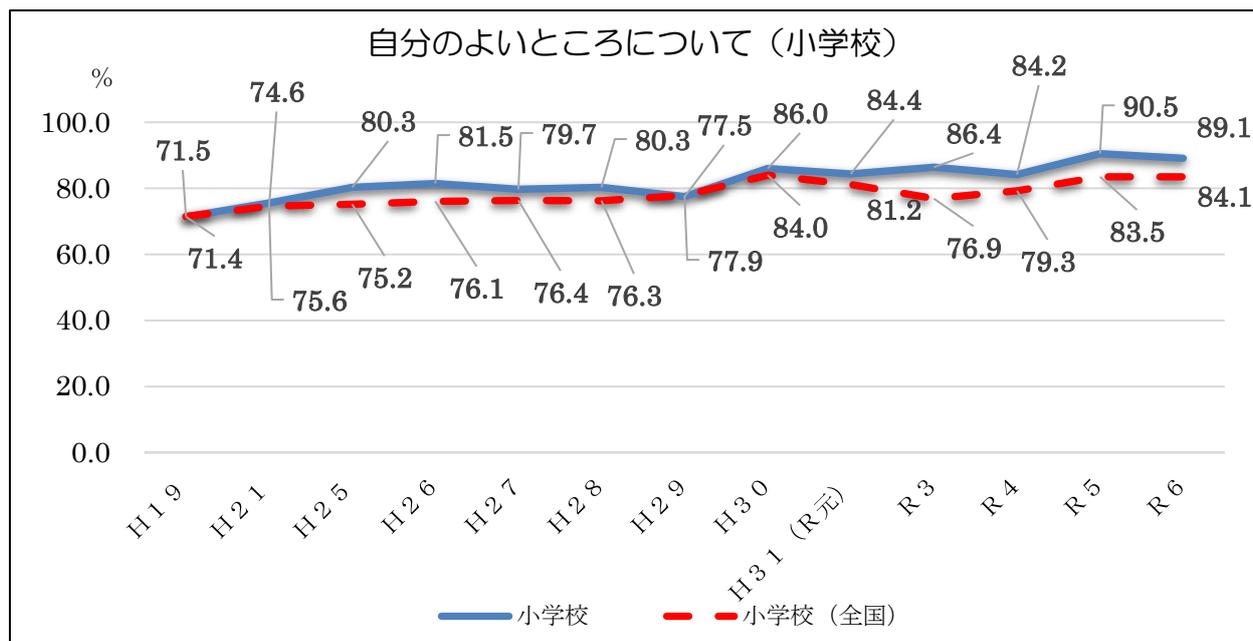


(注) 生徒…2時間以上（平日・土日とも）

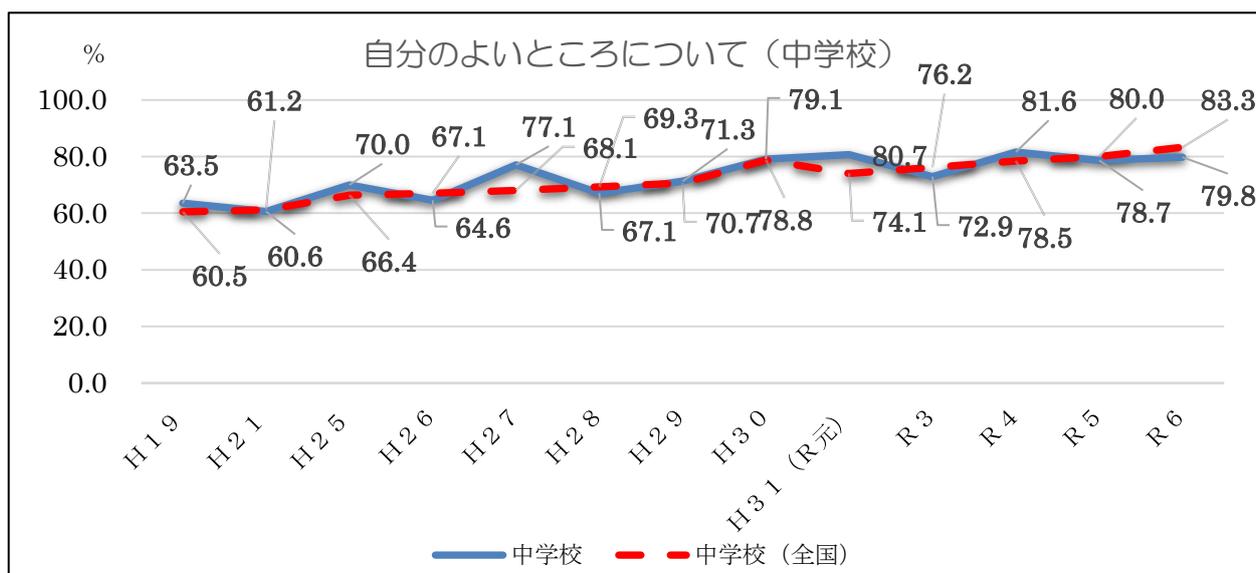
(注) H30, H31は質問項目なし

- 児童の家庭学習時間は平日・土日とも減少しており、1時間以上学習している児童は、50%台となった。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と比較して半減しており、過去最低の20%台となった。また、土日に2時間以上学習している生徒も半減しており10%台となった。
- テレビゲームの時間やSNS/動画視聴の時間の見直しのため「家庭学習のきまり」による啓発など、家庭学習の習慣化のため校区内の小学校・中学校が家庭と連携して取り組むことが大切である。

【平日】テレビゲームの時間	児童	生徒	【平日】SNS/動画の時間	児童	生徒
1時間以上	78.1%	72.2%	1時間以上	43.6%	78.0%
2時間以上	43.6%	38.5%	2時間以上	24.5%	44.3%



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の推移

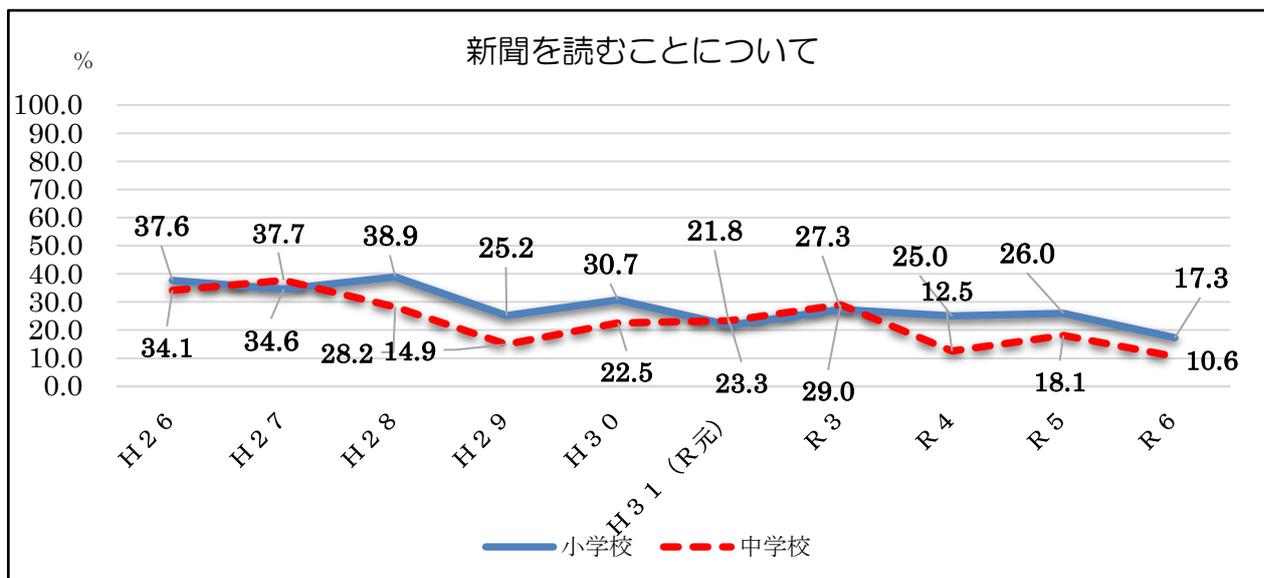


(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合の推移

- 児童は全国と比較して自己有用感を抱いている割合は6%程度高い。一方生徒は、前年度より微増しているが、全国を下回っている。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 香美町では、自己肯定感を高めることに取り組んでいるが、今後も幼児期の「ほめる」「認める」指導を徹底し、その成長を保護者と共有することで自尊感情を育てる。

エ【新聞を読むことについて】（社会に対する興味・関心）

質問番号 小・中（24）



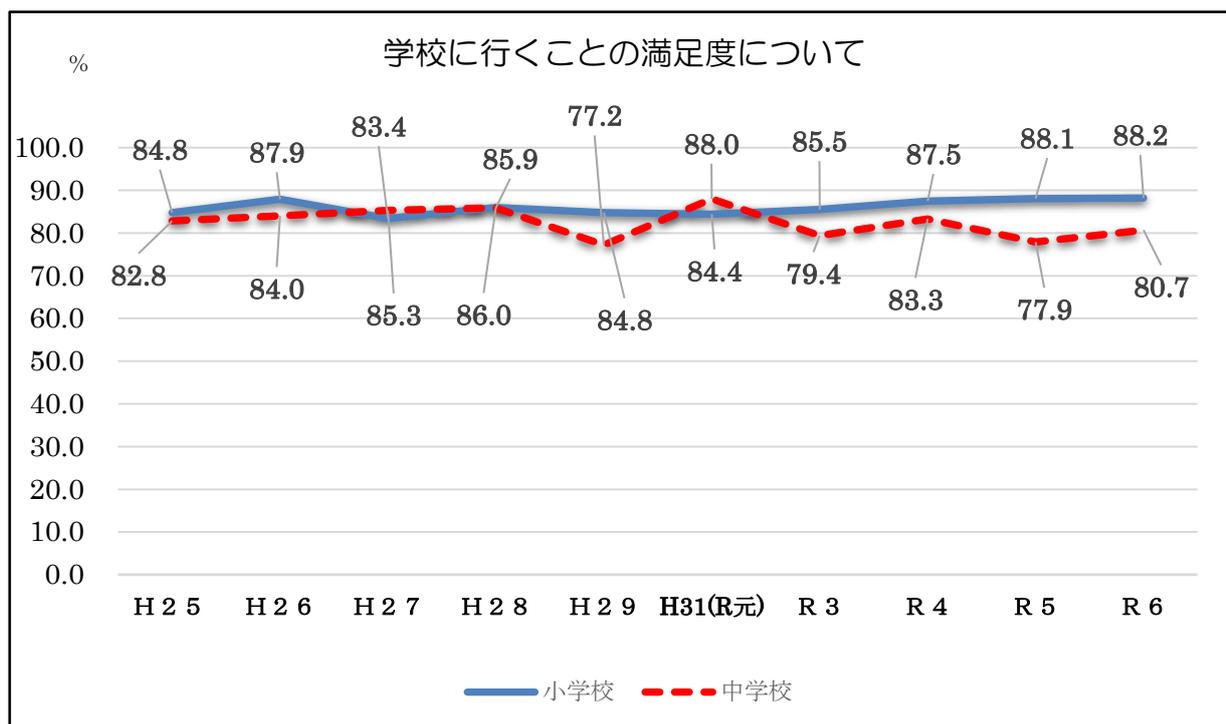
(注)平成25年度は、香美町小・中学校は本質問番号を選択していないためデータなし

(注)「毎日読む」、「週に1回～3回読む」と回答した児童生徒の割合の推移

- 児童生徒とも「毎日読む」、「週に1回～3回読む」を合わせて減少しており、児童生徒とも10%台となり、平成26年度以降、最も少なくなった。
- 問題の意図を読み込む力などを身に付けるためには、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことなどが求められる。
- 「新聞の発行部数と世帯数の推移」(日本新聞協会)によると1世帯当たりの部数は、昨年度が0.53であり、本年度は0.49となっている。1世帯当たりの部数は減少している。これが児童生徒の新聞離れの増加を招いている一因と考えられる。

(参考)「新聞の発行部数と世帯数の推移」(日本新聞協会) HP

年度	1世帯当たりの部数(単位:部)
2023	0.49
2022	0.53
2021	0.57
2020	0.61



(注) 平成30年度は、児童生徒質問紙に本質問がなかったためデータなし

(注) 「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、概ね80%台で推移していたが、本年度は生徒が微増した。
- 令和3年度以降の生徒の満足度が減少したのは、新型コロナウイルス感染症による影響で、主体性が発揮できる学校行事などが減ったことや進路への不安などが影響していたことなども考えられる。
- 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いることが課題である。

(参考)

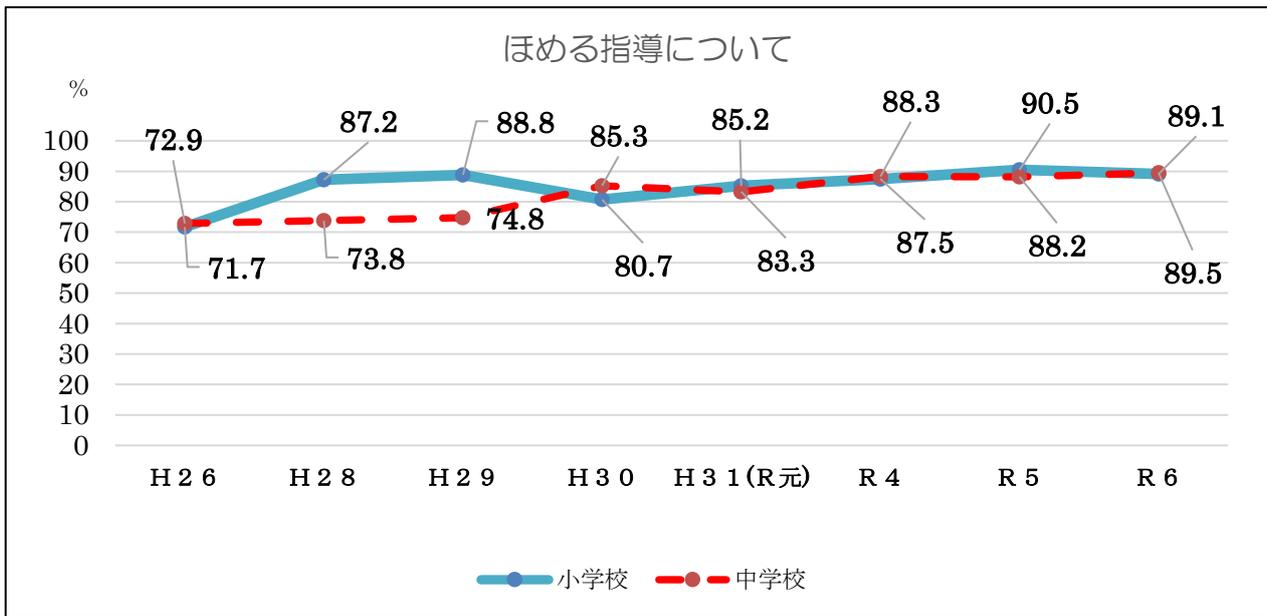
■ 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、次のとおりである。

(%)

	児童	生徒
香美町	45.5	41.3
兵庫県	45.5	42.2
全国	47.2	43.5

カ【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）

質問番号（小10）・（中10）



(注) 「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

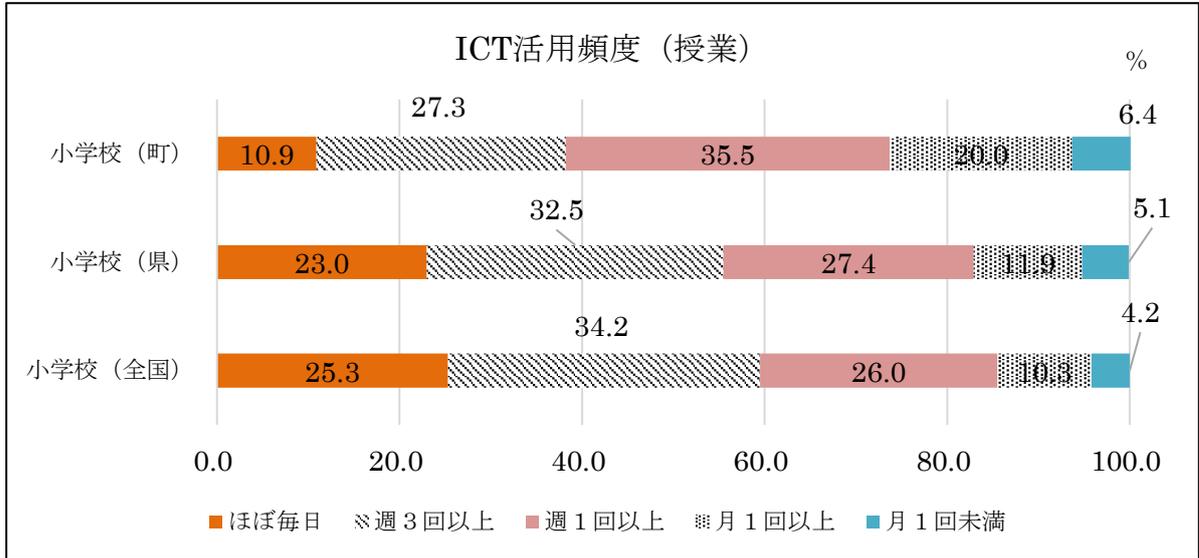
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、児童生徒ともに90%近くである。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の学習意欲を向上させることが求められる。

④ PC・タブレットなどのICT機器の活用などについて

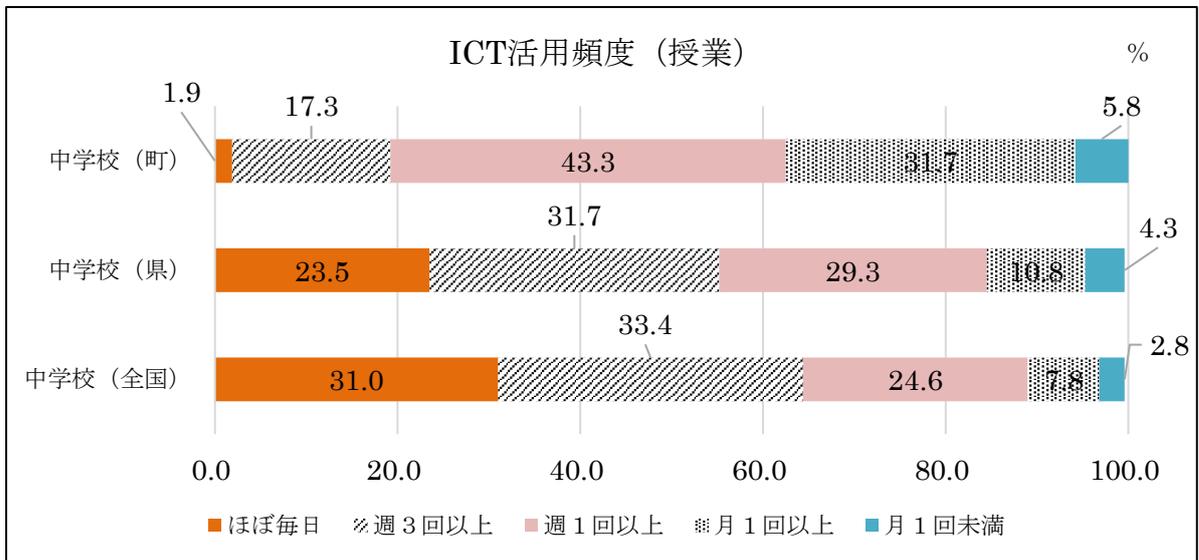
国の「GIGAスクール構想」により、児童生徒1人1台にタブレット端末が整備された。調査時点での活用の状況等については以下のとおりである。

ア【ICTの活用頻度①〈授業〉】

質問番号 小(27)

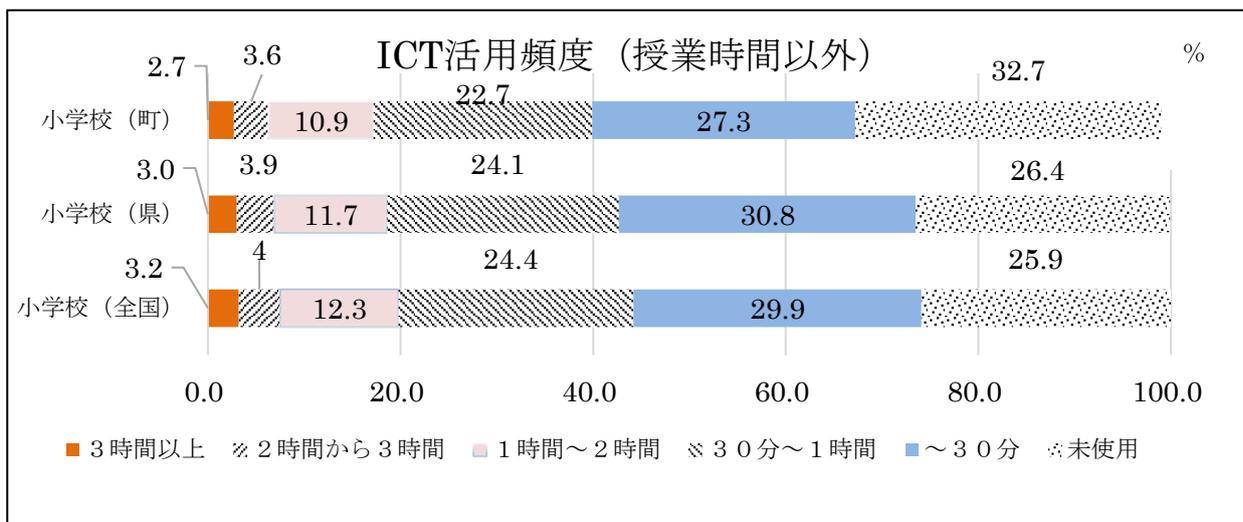


質問番号 中(27)

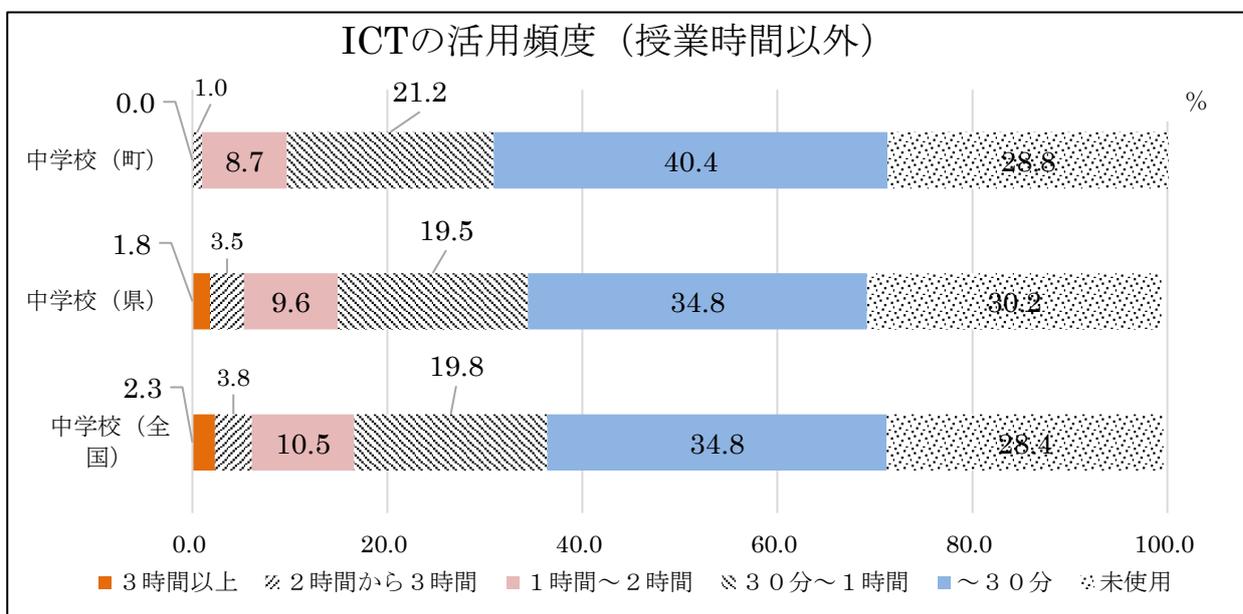


イ【ICTの活用頻度②<授業時間以外>】

質問番号 小(4)



質問番号 中(4)



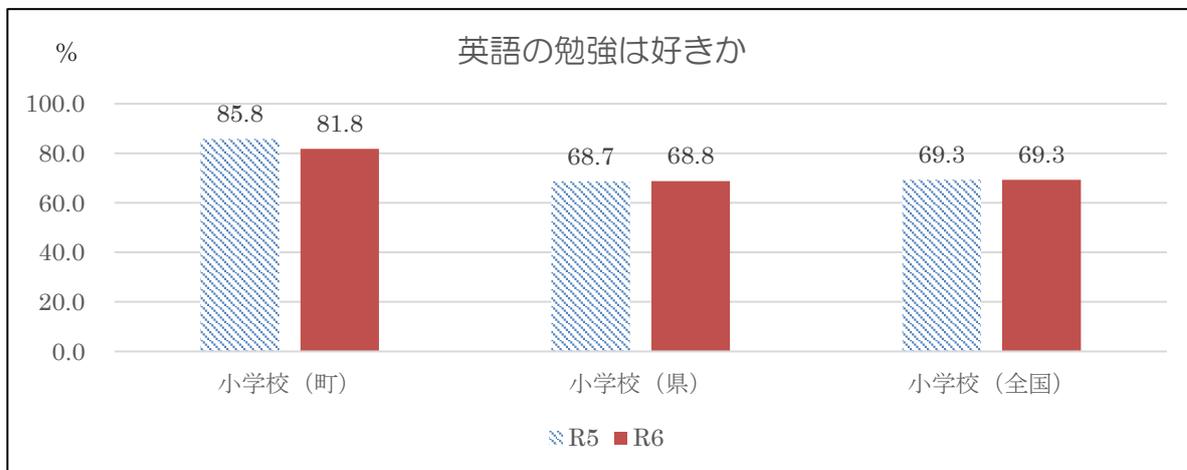
- 授業でのPC・タブレットの活用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。特に中学校においては、その差が大きい。
- 授業時間以外の場面においては活用頻度の割合は、児童は全国、兵庫県と比較してほとんど同じである。生徒は全国、兵庫県と比較してやや下回っている。
- ICT機器の有用性については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較し同傾向であり、有用性の認識度は高い。【参考】小・中質問(番号28-1~7)
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの効果的な活用の研修と実践を積むことが求められる。

⑤ 英語に関する状況について

英語に関する児童質問調査が昨年度に引き続き本年も実施された。令和5年度と令和6年度の比較なども含めた結果は以下のとおりである。

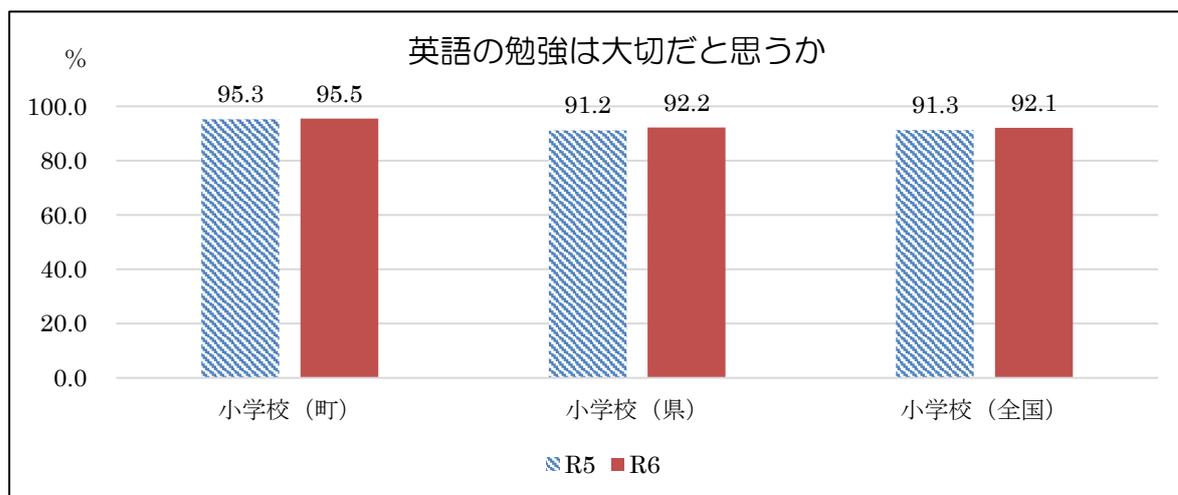
ア【英語に関する興味・関心等】

質問番号 小(61)



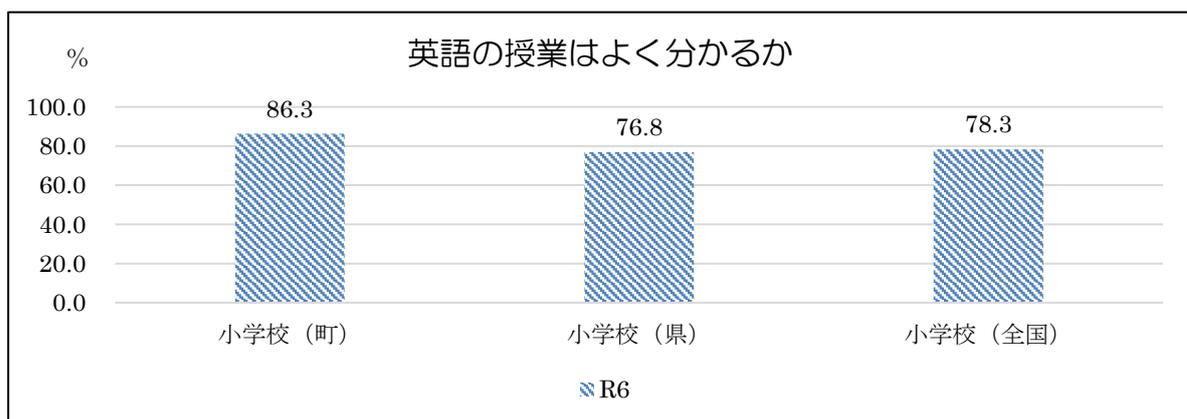
(注) 各質問とも「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合 以下同じ

質問番号 小(62)



イ【英語の授業における理解度】

質問番号 小(63)



(注) 令和5年度の調査では「英語の授業はよく分かるか」の質問項目はなし

- 「英語の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県・全国と比較すると高い。この傾向は昨年度と同様である。
- 「英語の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は香美町は県・全国と比較すると少し高く、昨年度より微増している。
- 「英語の授業はよく分かる」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県・全国と比較すると高い。

(4) 児童生徒質問と正答率のクロス分析の状況から

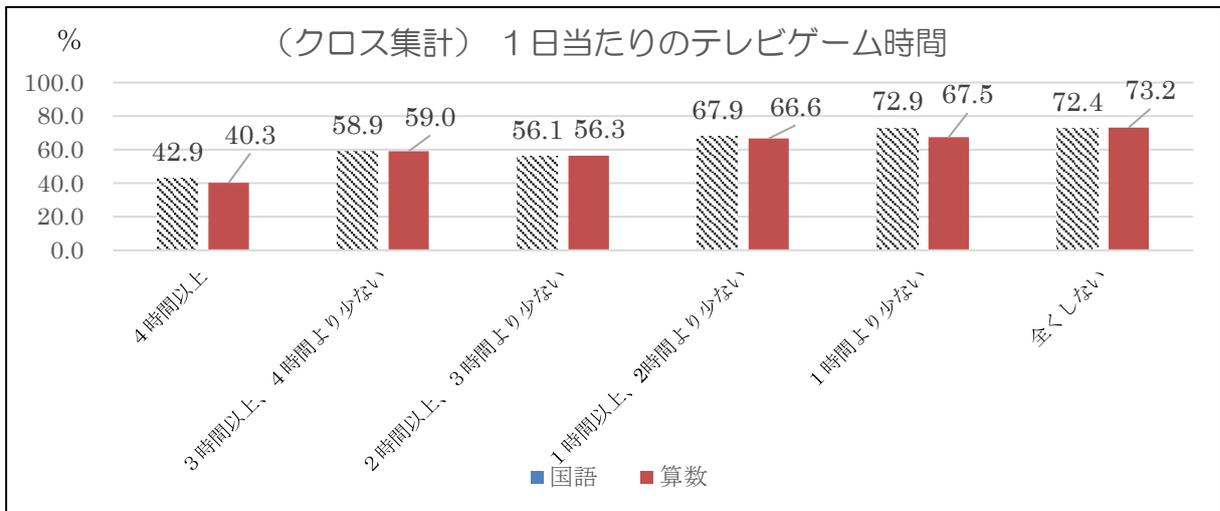
児童生徒質問と学力との間に一定の関係がみられる項目を抜粋し、教科の平均正答率とのクロス集計とその分析結果を掲載する。

① <「テレビゲームの時間」と正答率の状況について>

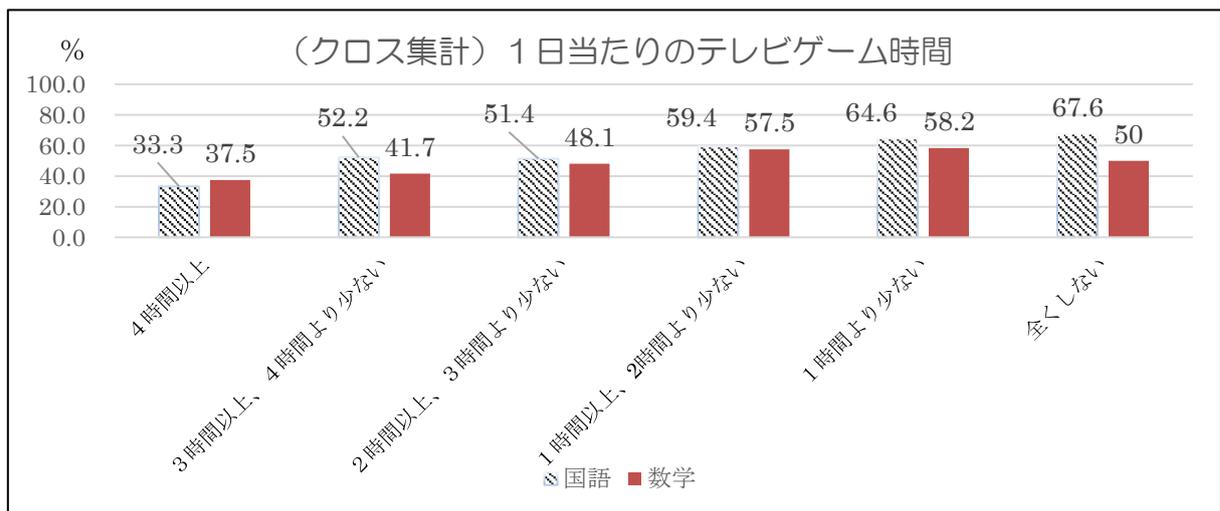
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(5) 中(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

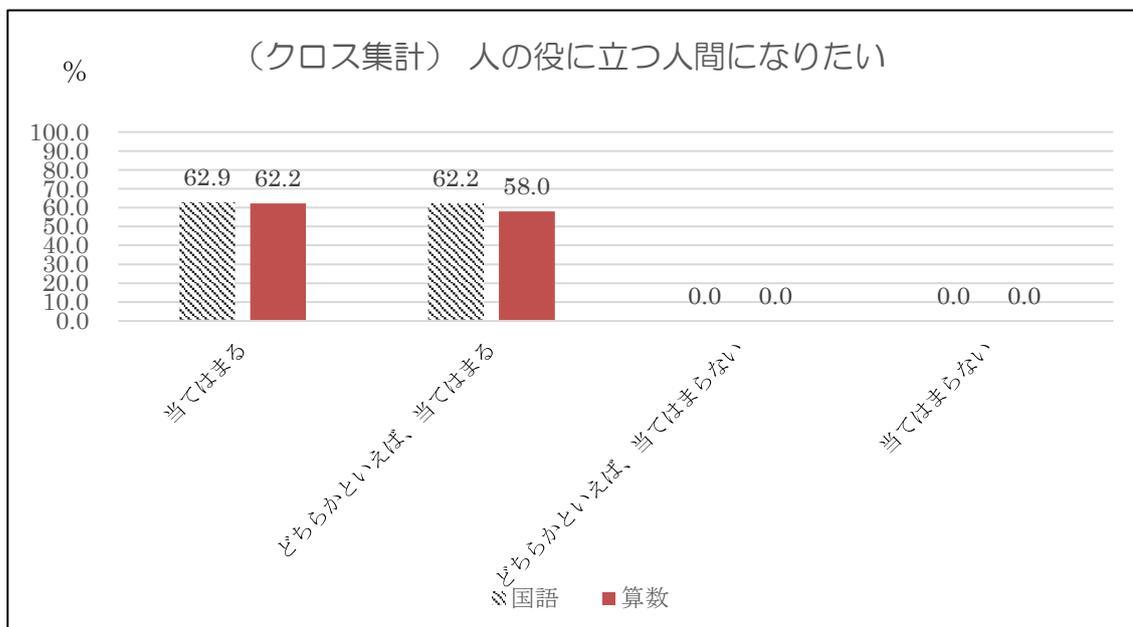
- 児童生徒とも1日当たりのテレビゲーム時間と国語、算数・数学の平均正答率との間に有意な相関関係が認められ、テレビゲームの時間が多いほど平均正答率は低くなる傾向にある。

② <「人の役に立つ人間になりたい」と正答率の状況について>

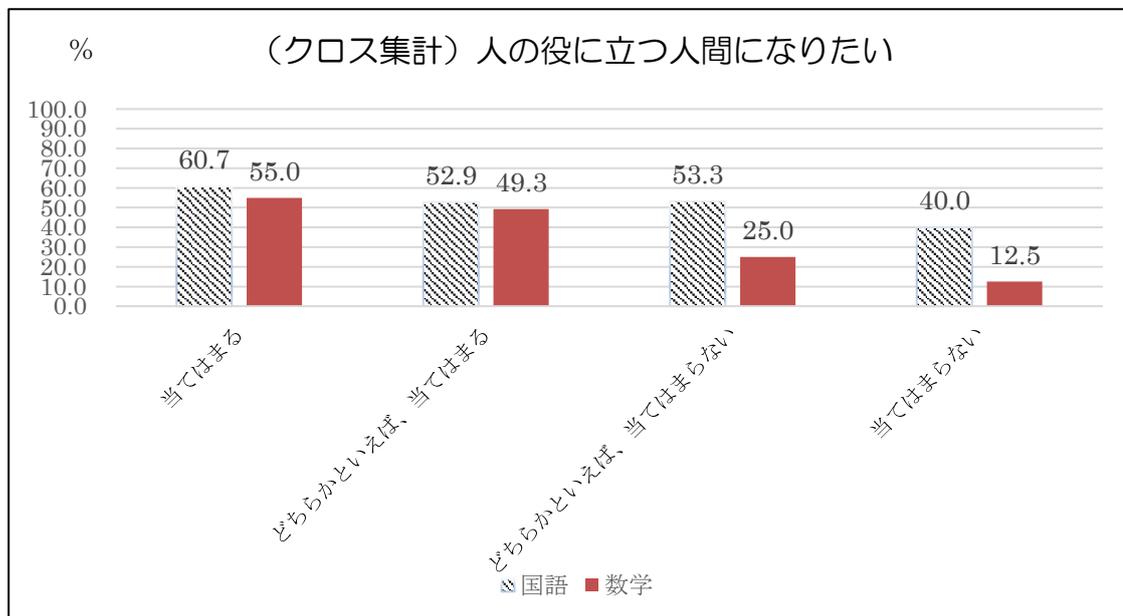
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(5) 中(5)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

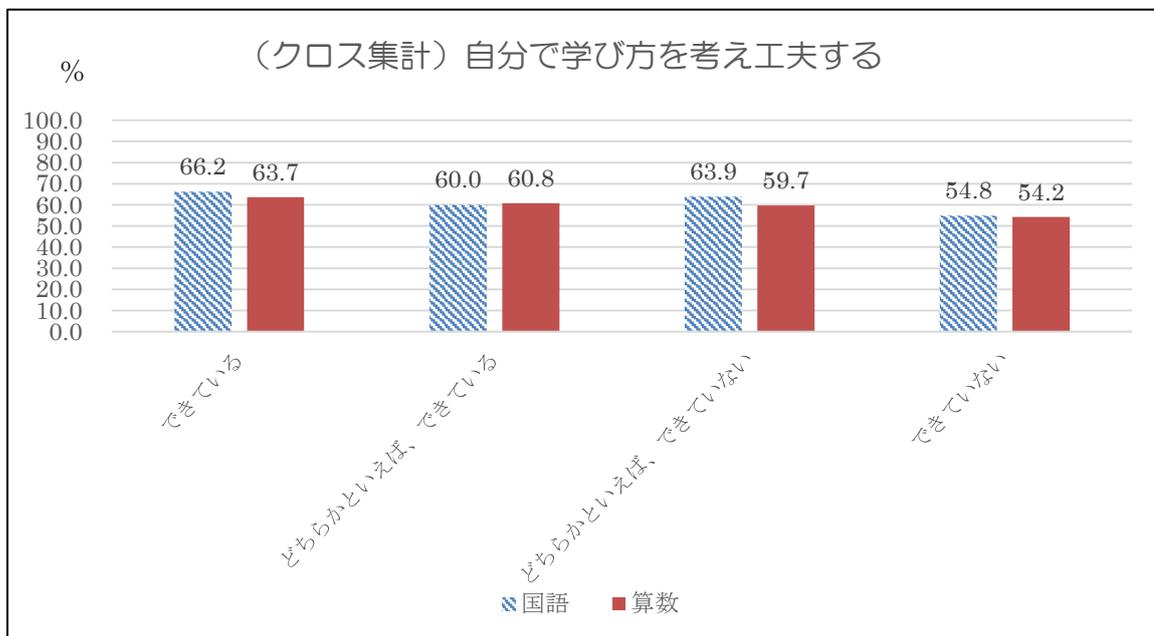
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に肯定的に答えた児童が多く、平均正答率との間にゆるやかな相関関係が見られる。
- 生徒についても、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に肯定的に答えた生徒の平均正答率に相関関係が見られる。

③ <「自分で学び方を考え工夫すること」と正答率の状況について>

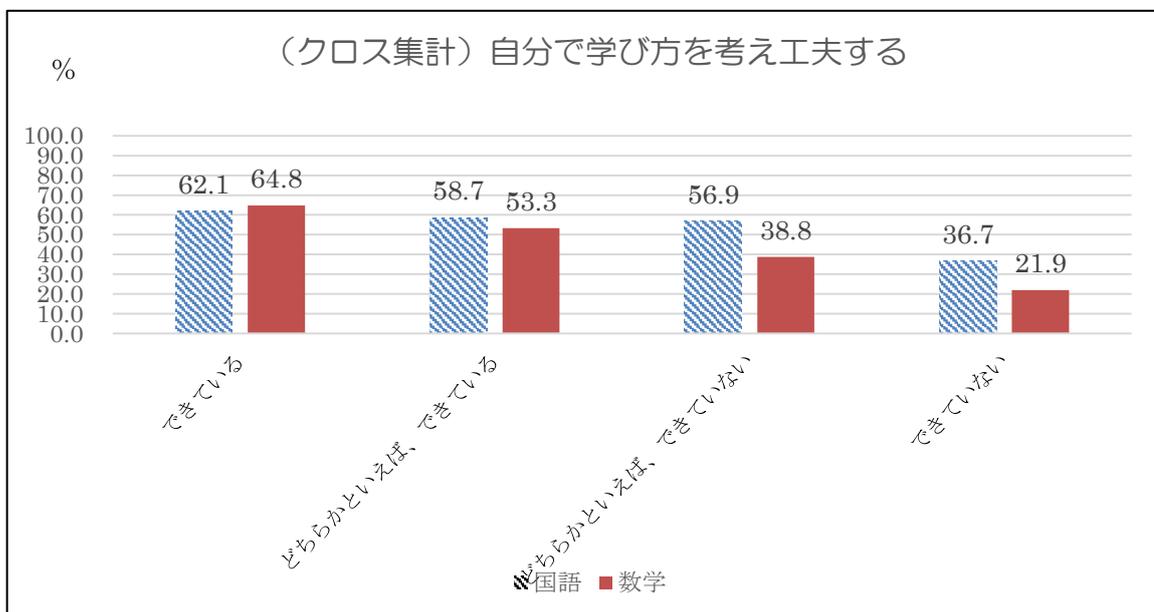
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(5) 中(5)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

《児童》



《生徒》



〔分析及び考察〕

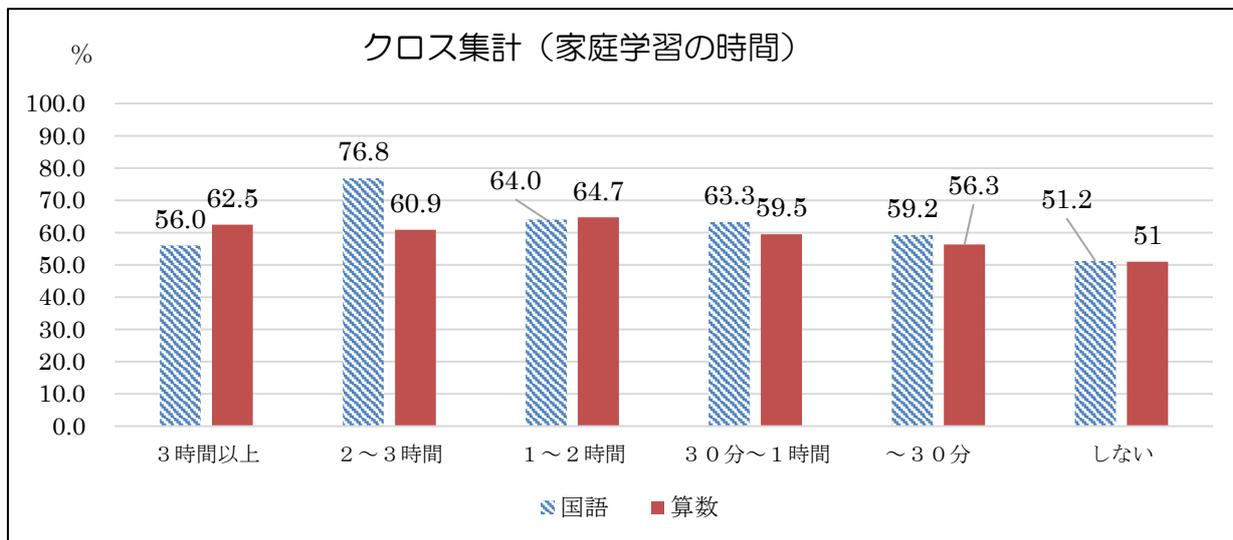
- 児童については、「自分で学び方を考え工夫すること」ができていない児童とそれぞれの教科における平均正答率との間には、有意な相関関係は見られる。
- 生徒についても、肯定的に回答している方が平均正答率が高く、有意な相関関係が見られる。
- 授業の中で自分で学び方を考え、工夫することができるよう、ICT等を活用した授業などに取り組ませたい。

④ <「家庭学習の時間」と正答率の状況について>

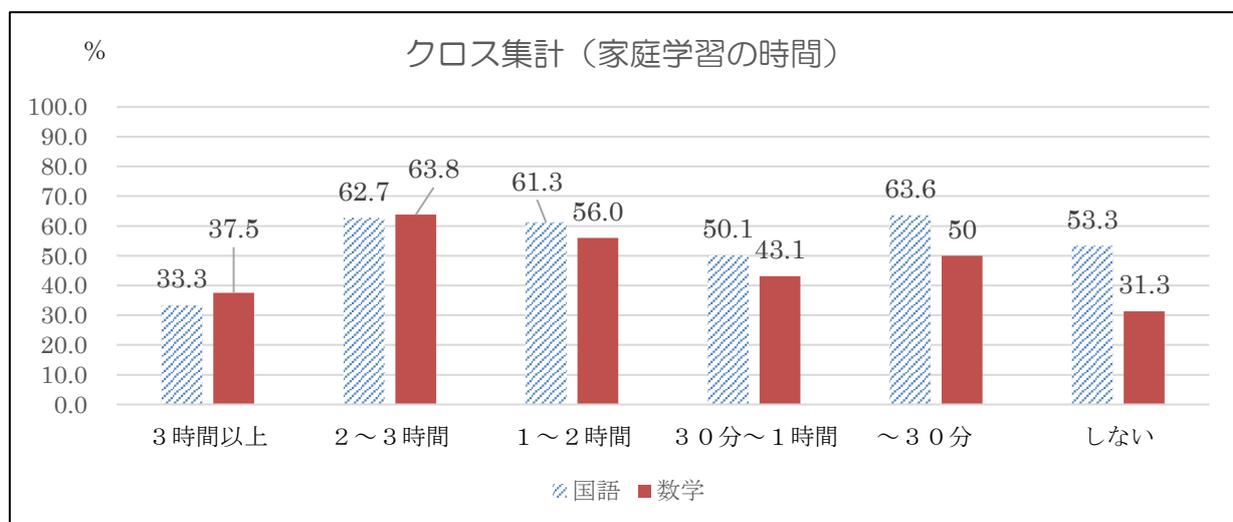
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(21) 中(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

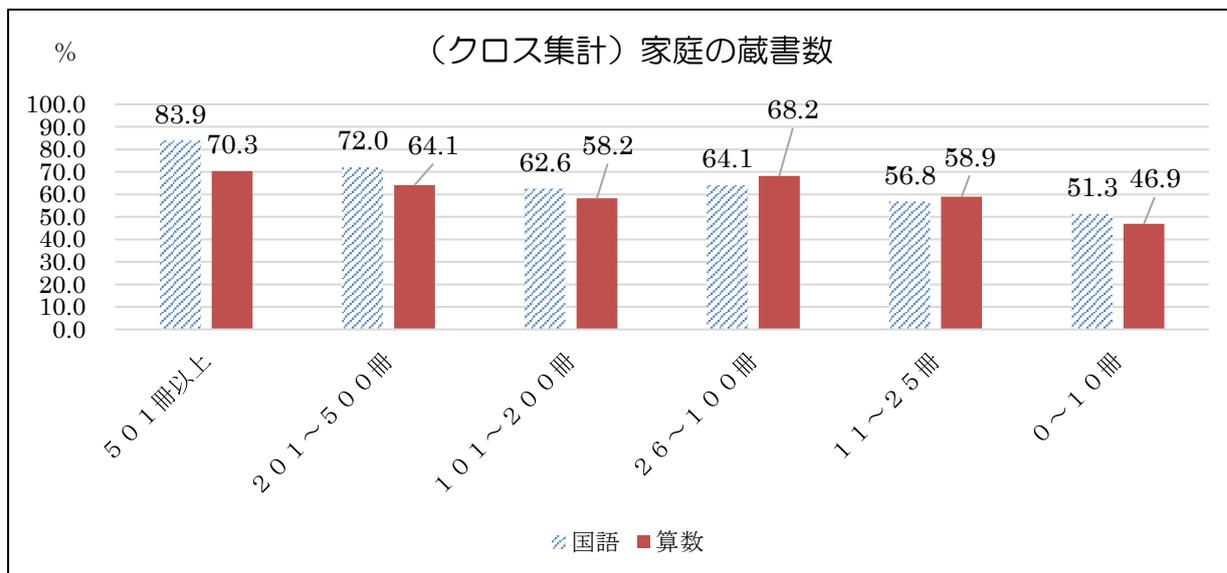
- 児童は、家庭学習の時間とそれぞれの教科の平均正答率との間には、概ね相関関係が見られ、家庭学習の時間が少ないほど平均正答率が下がる。
- 生徒は、家庭学習の時間と平均正答率との間には、相関関係が認められ、特に数学については顕著である。国語では、家庭学習の時間については相関関係がみられない。
- 家庭学習の時間が3時間以上の児童生徒については、平均正答率が低下する傾向にある。これは、学習内容に課題があると考えられる。
- いずれの教科とも「全くしない」と回答している生徒が一定数いることが課題である。

⑤ <「家庭の蔵書数」と正答率の状況について>

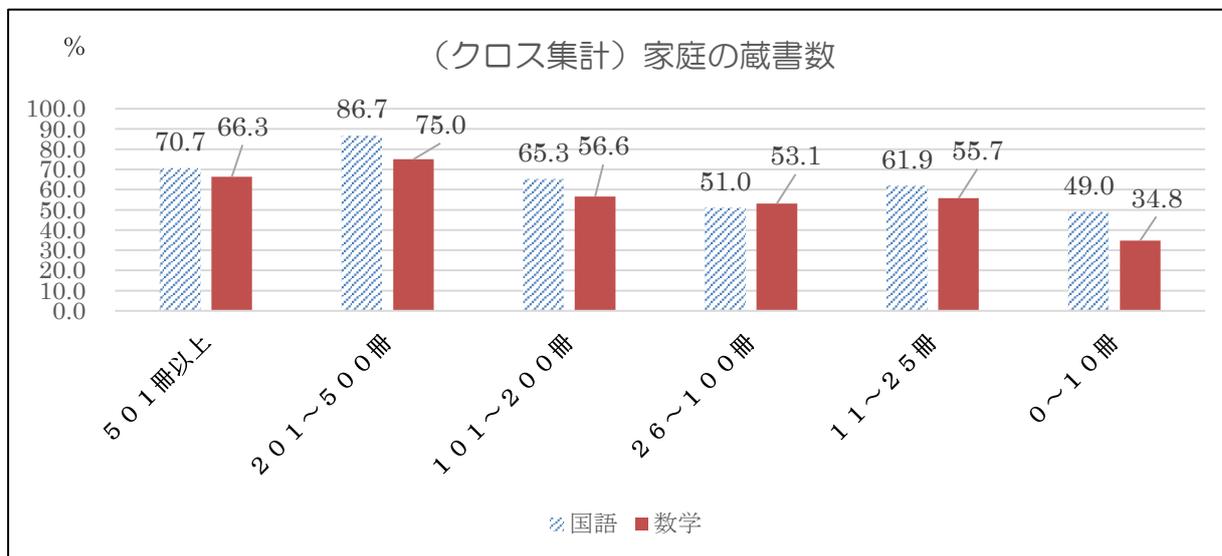
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(23) 中(23)	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

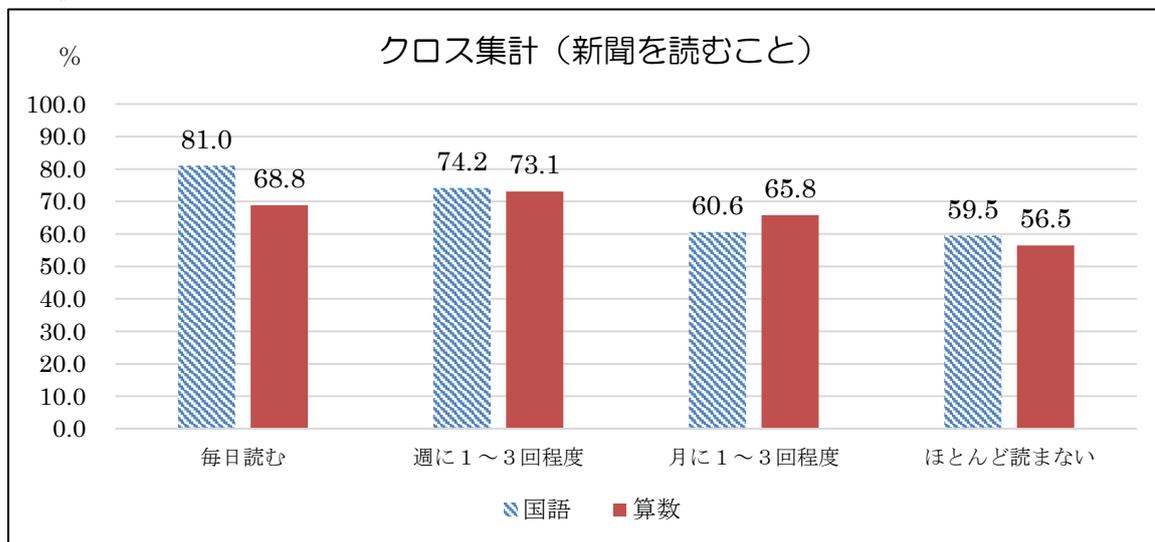
- 児童生徒ともに、家庭の蔵書数と国語と算数・数学の平均正答率の間に相関関係が見られ、蔵書数が増加するほど平均正答率も高まる。特に501冊以上と回答している児童の国語の平均正答率は、極めて高い。家庭での読書環境の充実が望まれる。

⑥ <「新聞を読むこと」と平均正答率の状況について>

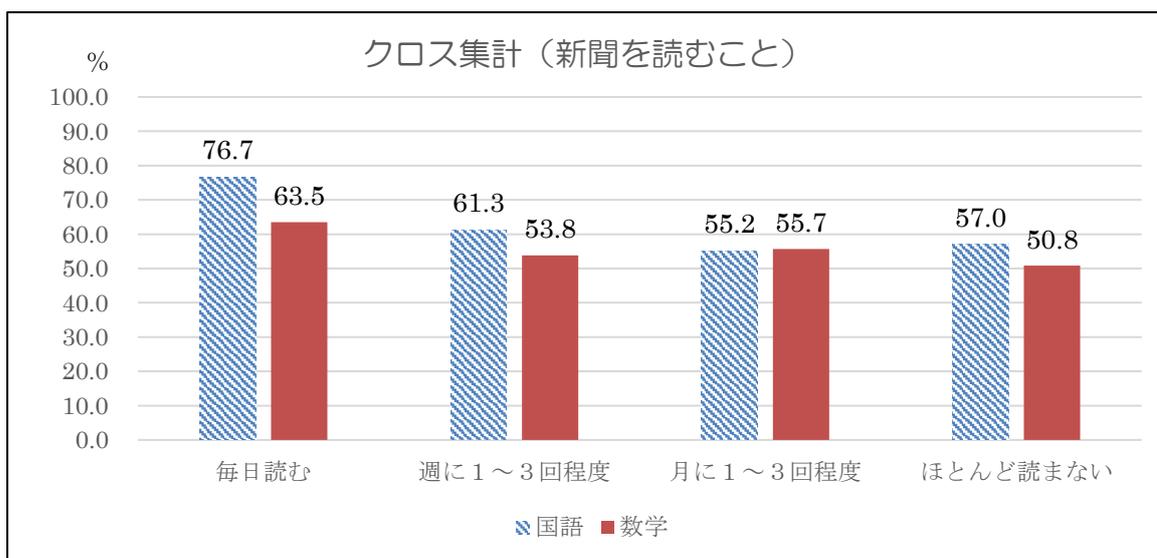
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(24) 中(24)	新聞を読んでいますか

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

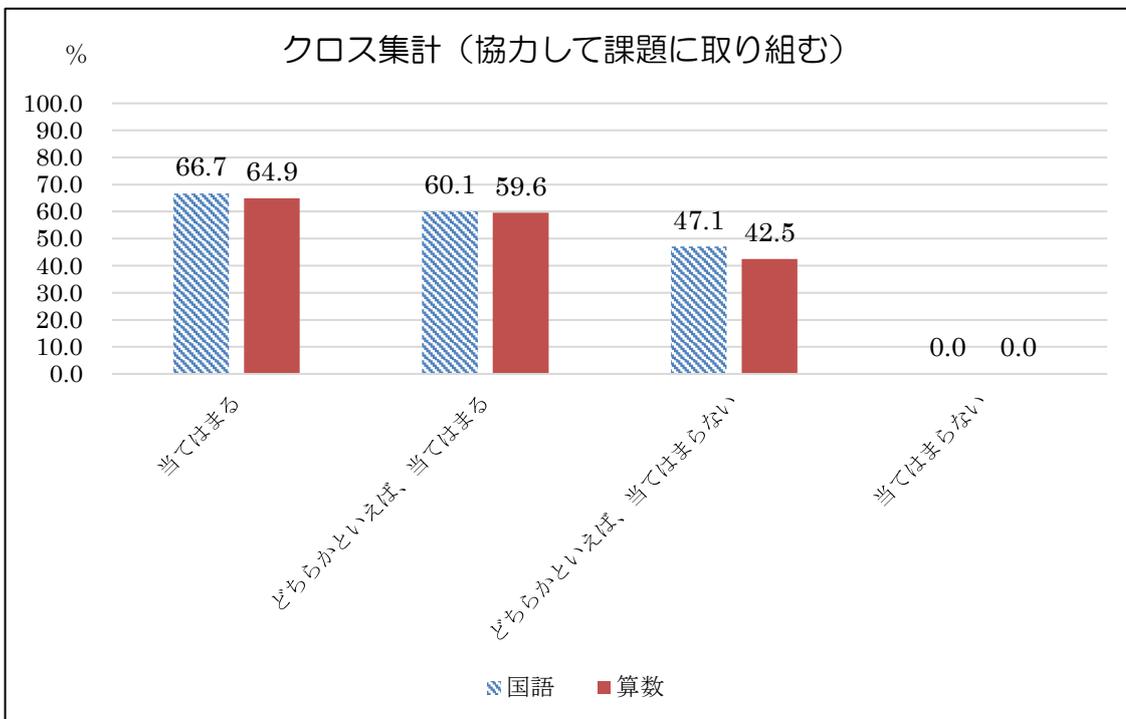
- 児童生徒の新聞を読む頻度と国語・算数（数学）の平均正答率との間に有意な相関関係がみらる。特に毎日、新聞を読む児童生徒の国語の平均正答率は極めて高い
- 新聞を読む習慣は、昨年度と比較して減少しており、クロス集計の結果からも、積極的に新聞を読むことを日常生活の一部として取り入れていくことが求められる。

⑦ <「互いに協力しながら課題解決」と正答率の状況について>

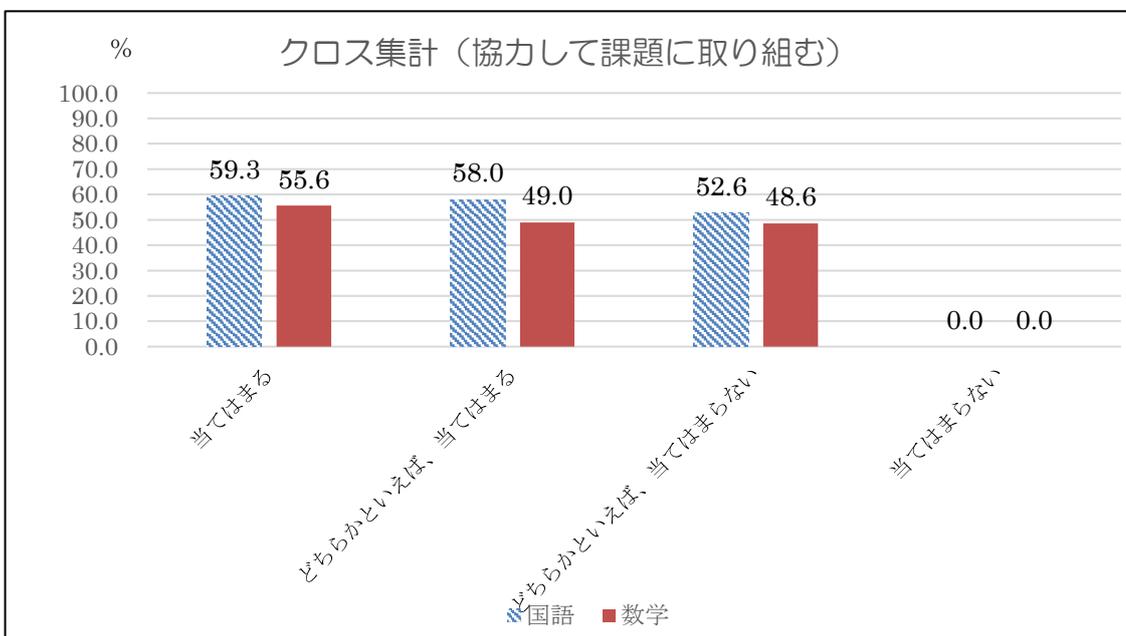
◆児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率

質問番号	質問事項
小(37) 中(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

《児童》



《生徒》



【分析及び考察】

○「お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の回答と教科の平均正答率の間に相関関係が見られ、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が高い。

3 今後の取組の方向性について

学校では

魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ、授業の質的転換を図る～

児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき、学力や学習状況の把握に基づき、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。



<授業実践のポイント>

- 国語科を要としつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- 全児童生徒に配備されたタブレットをはじめ様々な ICT 機器の活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。

指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質の高まりを図る～

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員や校種間で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

<実践のポイント>

- 教職員が積極的に学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを行う。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の不断の見直しを図り、取組の質的向上を図る～

小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのため、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<実践のポイント>

- オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭・地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点

地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率が高い傾向にあります。

さらに、家庭の蔵書数が多いほど平均正答率が高いことも報告されています。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「コミュニティ・スクール」や「オープンスクール」など、様々な機会や場を通じて、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育てていきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」などの習慣化）
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさと香美を愛し、夢や志を抱き、共に未来を切り拓く人づくり」をめざし、「第2期香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報紙などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、町じゅう図書館活動など）
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆ 全国の調査結果の詳細は、国立教育政策研究所の web サイトをご覧ください。

<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/index.html>

